

横地分類(改訂大島分類)

「移動機能」、「知能」、「特記事項」の3項目で分類し、以下のように表示する。

例：A1-C, B2, D2-U, B5-B, C4-D

〈知能レベル〉					
E6	E5	E4	E3	E2	E1
D6	D5	D4	D3	D2	D1
C6	C5	C4	C3	C2	C1
B6	B5	B4	B3	B2	B1
A6	A5	A4	A3	A2	A1
簡単な計算可					
簡単な文字・数字の理解可					
簡単な色・数の理解可					
簡単な言語理解可					
言語理解不可					
〈特記事項〉					
C:有意な眼瞼運動なし					
B:盲					
D:難聴					
U:両上肢機能全廃					
寝返り不可					
寝返り可					
座位保持可					
室内移動可					
室内歩行可					
戸外歩行可					
〈移動機能レベル〉					



はなく、「重症心身障害施設」(重症心身障害児施設の「児」が抜けて)と呼んでもいいと私は思います。なお、施設利用者の中では、医療的重症の小児の比率がますます大きくなっていくことを予想しています。そのための準備もしなければならぬと考えています。

あおばの

日常生活紹介

松本 悦子

あおばは、入所者18名横地分類A1が10名、A2が2名、B2が1名、C1が2名、D2が1名、D6が1名、E1が1名のゾーンです。利用者一人ひとりが、興味関心を持つ物、楽しめる物は様々ですが、生きがい活動の中でもっと聞きたい、もっと見てみたいという気持ちを持てるように心掛けています。

Aさん(横地分類A1)は、人の話し声や周りから音楽が流れてきたりすると、音や声のする方に顔を向けじっと動きを止めていることがあります。音のする方に気持ちを向けてよく聞こうとしているのが感じられます。また、レインボースプリングを伸ばしたり縮めたりして見せると、職員の手動きに合わせてるように視線が動いたりします。生きがい活動では語りかけのリズムを聞いたたり、ページごとの色彩の変化を感じたりして楽しめるのではないかと思います。絵本を見せ語りかける活動を行っています。



絵本を語りかけている間はじっと動きを止めています。絵本や職員の方を向いています。絵本『もこもこ』の中の「ふんわ、ふんわ」という言葉や絵本『おおきなかぶ』の中の「うんとこしょ、どっこいしょ」など同じ言葉が繰り返し、語りかけのリズムがそれまでの流れと変化するような場面で、目を大きくして表情が変わることがあります。また、ページをめくる時にページを追うように視線を動かしたり、色彩がより鮮やかになるような場面になると目を少し大きく開けたりします。語りかけをよく聞こうという気持ちや絵本のページがめくられる動きや色彩の変化をよく見ようとしている感じが感じられます。

Bさん(横地分類A1)は、体を揺らしたりさすったりすることを心地よいと感じ、口元を緩ませ笑顔がみられることがあります。生きがい活動では、心地よさだけではない、もっと聞いていたいというような活動的な気持ちを持てるような時間にしたと思うことがあります。それまで体を動かしたり、声を出したりしていても、リズムカルに紙を割き、音を出すと、じっと体の動きを止めてよく聞いている様子があります。紙を割くのをやめて間をとると、動きをじっと止めて期待しているように感じられます。

すばるの

日常生活紹介

黒柳 摩紀



すばるは、入所者21名(横地分類A1が11名、A2が6名、B1が2名、D1が2名)が生活しているゾーンです。利用者一人ひとりが充実した生活を送ることができるよう活動を提供しています。

Aさん(横地分類A1)は、耳元で囁くように話しかけると声のする方へ顔を動かして、職員の声をよく聞いているような様子があります。体に触れられたときには目を大きく